

取り巻く

社会問題

指摘

室蘭言泉学園70周年講演

東さん 共生実現訴え



「共生社会の実現に向けて」をテーマに講演した東さん

とする、不当な差別等の禁止
配慮の不提供
を除去するための現状の
障壁
者にとって
るよう

障害児入所施設室蘭言泉学園（菅野登一郎理事長）の開設70周年公開記念講演「共生社会の実現に向けて」が26日、室蘭市輪西町の市民会館で開かれ、熊本学園大学教授で弁護士の大塚裕さん（67）が障害者が共に暮らせる地域社会について話した。

東さんは小児まひで足が不自由となり車いすを使って生活しており、内閣府障害者制度改革担当室長などを務めた経験がある。約450人の来場者を前に、障害者を取り巻く社会の問題を説明した。

東さんによると、障害者らはこれまで福祉社会の形成に注力してきた。一方で、障害に対する偏見や無理解な社会について、意識を変

えることが手薄になっていたという。現在の社会の在り方を「障害者を福祉に依存させる仕組み」と問題視した。

「障害者の存在が当たり前である社会に向けて、今後、どういつ支援をしていくかが問われている。具体的に何をすれば良いのか、一朝一夕にはいかないが、今後の皆さんの活動に期待したい」と呼び掛けた。

同学園は1949年（昭和24年）6月、聴覚障害のある児童の生活を支援する「ろうあ児施設室蘭言泉寮」として開設。昨年6月に70周年を迎えた。菅野理事長は「障害者の立場に寄り添って事業を進めていきたい」と意気込みを語った。

（林帆南）